

「土砂災害への意識」

岡山県 倉敷市立北中学校 3年 郷原 昌樹
ごうはら まさき

僕は、土砂くずれや地すべりという土砂災害は、まだ一度も経験したことはありません。

しかし、テレビなどで見る電柱をなぎ倒して進む土砂を見ると、とても恐ろしくなります。さらに、土砂災害のことを考えてみると、僕らが住む岡山県に土砂災害は天敵なのではないかと思いました。

岡山県は、「晴れの国」として有名です。僕が二年前に岡山に引っ越してきたときは、傘を使う日があまりにも減ったので、とても驚きました。しかし、晴れの国というのは、雨があまり降らないということです。雨が降らない地域にある山や地面は、雨に対しての抵抗が弱いと考えられます。もしこのような気候の岡山県に局地的に大雨が降ると、土砂災害が起こりやすいのではないかと気付きました。最近のニュースからは「局地的な大雨」という言葉をよく耳にします。岡山県にこのような雨が降るということを考えると恐ろしいです。また僕の住んでいる地域には、小高い山がいくつもあるので、より一層危険を感じます。

岡山県の土砂災害の影響を考えて、僕は岡山県だからこそ充実させたい土砂災害対策があると思いました。僕たちが、晴れの国という意識と雨に弱い国という意識を同時に持ち、土砂災害を身近に考えていくこともその対策の中の一つになるのではないかと思いました。知識と備えが自分たちを守るのだと改めて感じました。

また、土砂災害の被害の中で一番印象に残っているのが、熊本県阿蘇の草原でのことです。緑の大草原の中にある無数の黒い土砂が崩れた後を見て、土砂の威力のすさまじさを思い知りました。その土砂は、阿蘇の草原で育まれていたたくさんの牛をも流していったといいます。土砂が流していくものは、石や砂だけでなく、もっと大切な重みのあるものだと感じました。だけど、この土砂で牛をなくしてしまった農家の人が草原の再生のために一生懸命尽力していました。その姿を見て壊されたものの復旧がいかに大事かということを改めて感じました。その農家の人は普段自然の恩恵を受けている代わりに、この草原を守っていきたくておっしゃっていました。人類と自然との共生の大事な部分はこのことではないかと思いました。農家の人の行動に感動しました。しかし、土砂災害の原因の大雨もまた人類が発生させた環境問題の一つです。この環境問題を解決し、被害を受けた地域の復興をしなければならないと思いました。この農家の人のような心もち、復興作業に協力することも、土砂災害への対策になり、防止にもつながるのではないかと思います。

土砂災害のことを改めて考えてみると、自然にも人類にも悪い影響があり、それは人類がきっかけで起こってしまったものではないかと思いました。だから、一人一人の人間が土砂災害のことをしっかりと見つめ直していけば、対策が防止は決して不可能ではないと思います。人間の意識を変えるだけで、自然災害の一つをなくすことができるかもしれません。岡山県は、大きな雨の被害がでる前になくさなければなりません。また、おこってしまった土砂災害には、自分たちのせいで被害が出たという意識を持ちながら復興作業に力をそそがねばならないと思います。あの農家の人の意識も大切な事です。

これからの土砂災害は、ますます威力を強めていくと思います。だからこそ僕は、土砂災害のことを見つめなおし、絶対に大きな被害を出させないように意識をしたいと思います。そして、この意識が住んでいる地区や岡山県全体に広がり、岡山県が、「雨に強い国」「土砂災害に強い国」になってくれればいいと思います。土砂災害を経験したことがない僕にとって、いろいろなことを知り、土砂災害のことを身近に感じる事ができました。この体験をこれから先も忘れずに生きていきたいと思いました。